

第1回 学校運営協議会 地域防災部会 「地域防災プロジェクト」 議事録

メンバー：学校運営協議会委員 河内 真理子様、仁科 節夫様、村上 眞様、吉岡 誠一郎様
本校教職員 松本 香織、伊東 英二、浅野 俊彦

◎仁科 節夫委員

- ・町内会としては、消防へ行っていた人が町内の行政担当になり（昨年度2人で来校し、日下部教頭といろいろ話をしている。）、町内3役もお願いしており、今まで以上に協力していただける。
- ・学校周辺地域は、台風接近時は水位を落とす体制ができるため、通常時の浸水はないはず。
- ・平成30年の西日本豪雨時には、人為的な操作ミス（人災）により公民館周辺等（内尾地区28件、曾根地区2件）で浸水があった。
- ・藤田地区はパイプラインで田んぼに水を引くので川の水が少ない。そのため「田んぼダム※」の協力をお願いしている。
- ・妹尾川は洪水の心配はない。津波時に一気に上がってくる可能性有。
- ・プレハブ棟が避難場所に予定されているが、本当に大丈夫なのか…。

※田んぼダム：田んぼが元々持っている水を貯める機能を利用し、大雨の際に一時的に田んぼに水を貯め、ゆっくりと排水することで、農地や市街地の洪水被害を軽減しようという取り組み。田んぼダムの実施により、通常の水田と比べ、ピーク流量（最大排水量）を60～70%抑制することができる。（出典：宮城県公式Webサイト）

◎吉岡 誠一郎委員

- ・最近は天気予報が進歩しており、台風接近の際には地区ごとに川の水位を管理できている。
- ・淡水湖の水は向こうに抜けられないため、線状降水帯等の時には逆流することがあるかもしれないが、通常であれば大丈夫。
- ・民生委員の取り組みとしては、避難行動の要支援者名簿を行政でリストアップしているものを持っている。岡山市では、民生委員が各家庭で個別避難計画をつくるサポートをしている。

◎松本 香織 教頭

- ・学校では緊急時を想定した引き渡し訓練をしている。
- ・（各児童生徒の）自宅がある場所より学校周辺の方が安全なので、安心して迎えに来てくださいと言えるのではないかと思う。
- ・以前、前任校の校区の避難所に指定されていた小学校が西日本豪雨で水没してしまい、降ってみて初めて避難所として使えないということが分かった。

◎河内 真理子委員

- ・一昨年、興除公民館で発達障害に関する講座を3回開いて理解は深まった。
- ・多様性の理解とは言うものの、地域の大人の理解が足りないと思う。避難所運営の初動訓練時に、集団に入れない人の避難はどうするのかという話題も出てくる。
- ・学校は、子どもたちがパニックにならないようにどう行動すべきかを教えていく必要があり、受け入れ側は、集団になじめない人たちにどう対応していくか勉強していく必要がある。
- ・いろいろなことで交流することで、相互理解を深めることができればいいと思う。知ってもらうことと、理解を深めていくことが大切。

◎村上 眞委員

- ・要支援者の個別避難計画づくりは今年で3年目。県内では岡山市のみ予算化している。
- ・要支援者名簿に掲載されている人を対象に、岡山市の危機管理室から各家庭に避難計画を立てるよう案内が発出されている（第1弾）。地域の皆さんに実態を知っていただきながら、計画を一緒に考える（第2弾）。今年度はその案内はもう発出されている。現時点で岡山市が（要支援者名簿・個別避難計画の作成が）どの程度進んでいるかの進捗状況は、（村上委員は）把握していない。
- ・児童生徒が地域に帰った時に、その計画の中に南支援が二次避難所としてプランに上がってくるかもしれない。民生委員は避難する人の情報を知る機会が増えてくるだろうし、地域としての理解は進んでいくものと思われる。

◎浅野 俊彦教諭

- ・夏休みに教職員対象の災害安全に関する研修を予定している。社会的に弱者である障害をもった子どもたちが避難所に避難した時にパニックになることが大いに予想されるが、パニックにならないようにどう支援できるか勉強したいと考えている。実際の避難所を題材に、地域の方々のお力をお借りしながら研修したい。